

2024年度入学生

臨地実習要領
【統合実習】

茨城県立看護大学校
看護学科 3年課程

〒309-1703 茨城県笠間市鯉淵 6528
TEL 0296-70-5521
FAX 0296-70-5529

統合実習

[2単位 90 時間]

目的

専門知識および技術と態度を統合し、保健医療福祉チームの一員として看護マネジメントが実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 保健医療福祉チームにおける看護の機能と看護マネジメントの実践を理解できる。
 - 1) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割と機能を理解できる。
 - 2) 看護単位における看護職管理者の役割と機能を理解できる。
 - 3) 看護ケア提供システムを理解し、リーダー・メンバーの役割を理解できる。
 - 4) 保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働の実践と継続看護の必要性について理解できる。
- 2 複数の対象の状態に応じた看護や特定の状況に応じた看護展開を理解する。
 - 1) 複数の対象の病態・症状・治療のアセスメントができる。
 - 2) 複数の対象の看護の方向性についてアセスメントできる。
 - 3) 複数の対象の状態に合わせた状況の判断および必要な援助を決定できる。
 - 4) 多重課題における優先度が理解できる。
 - 5) 自ら必要な指導を受けながら、必要な援助を実施できる。
 - 6) 状況に応じて自ら報告・連絡・相談ができる。
 - 7) 実施した援助を評価し、次の援助に活かすことができる。
- 3 複数の対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を形成できる。
- 4 保健医療福祉チームの一員としての役割を意識し、責任ある行動がとれる。
 - 1) 主体的な学習の継続ができ、学習成果を看護実践に反映できる。
 - 2) 専門職業人としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。

実習期間および実習時間

- 1 実習期間： 月 日 () から 月 日 () 12 日間
- 2 実習時間： 8 時 30 分～15 時 30 分 90 時間

※実習内容により、実習終了時間が異なる。

実習スケジュール例

実習 1 日目	実習 2 日目	実習 3 日目	実習 4 日目	実習 5 日目
(学内) 2 時間 実習オリエンテーション (学内 1) 2 時間 演習	(臨地 1 日目) 9 時間 8:30～16:15	(臨地 2 日目) 9 時間 8:30～16:15	(臨地 3 日目) 9 時間 8:30～16:15	(臨地 4 日目) 9 時間 8:30～16:15
実習 6 日目	実習 7 日目	実習 8 日目	実習 9 日目	実習 10 日目
(臨地 5 日目/学内 2) 8 時間 臨地 8:30～12:15 学内 13:15～15:30	(臨地 6 日目) 5 時間 8:30～12:15	(臨地 7 日目) 8 時間 8:30～15:30	(臨地 8 日目) 8 時間 8:30～15:30	(臨地 9 日目) 8 時間 8:30～15:30
実習 11 日目	実習 12 日目			
(臨地 10 日目) 8 時間 8:30～15:30	(学内 3) 5 時間 8:50～12:00 13:00～13:45			

※詳細は別紙スケジュール参照

実習内容例

実習 日数	1		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
場所	学 内	学 内	臨地1	臨地2	臨地3	臨地4	臨地5 /学内	臨地6	臨地7	臨地8	臨地9	臨地10	学内
時間	2	2	9	9	9	9	8	5	8	8	8	8	5
内容	オ リ	演習	病棟オリ メンバー	メンバー 看護 部門	管理者	メンバー	初回カン ファ / 情報収集	複数受持 / アセスメント 看護計画 立案	複数受持 ミニカンファ / アセスメント・計画修正	複数 受持	複数 受持	複数 受持 終了カン ファ	個ワーク Gワーク 全体討議

4日間の中で看護の組織管理の説明と看護管理者実習・メンバー実習を設定する
※申し送りやチームのカンファレンス・多職種連携の見学も積極的に行うこと

内容

1 学習課題

以下の課題を、テキスト・授業での配布資料・課題レポート・文献・専門書・看護系学術雑誌を活用しまとめる。使用した引用・参考文献は文献リストを作成し、明記する。

1)、2) は実習当日までに学習し、初日の朝に提出する。

3) については、学内実習1で使用しますので、その際に持参し終了後、提出する。

1)

(1) 看護マネジメント

- ① 病院組織の中での看護部の役割と看護部長及び看護師長の役割
- ② 看護ケア提供システムの種類と方法
- ③ リーダー・メンバーの役割

(2) チーム医療と連携

- ① 保健医療福祉チームにおける職種とその役割
- ② 保健医療福祉チームにおける看護の役割と他職種との連携方法
- ③ 医療安全の目的と保健医療福祉チームにおける方法

2) 複数の受け持ち患者決定後、対象理解に必要な学習内容

- (1) 対象の健康障害とその病態生理
- (2) 対象の健康障害に対する検査・治療
- (3) 対象の健康障害や症状に応じた看護

3) 専門職としての倫理

- (1) 専門職に求められる倫理
- (2) 看護倫理
- (3) 臨床倫理の4原則（自立尊重、善行、無害、公正・正義）
- (4) 看護師の倫理綱領

2 実習方法 ※詳細は別紙スケジュール参照

1) 看護の組織管理実習

(1) 医療安全対策、感染制御対策、看護教育支援等について、組織の機能と役割を知る。

2) 看護管理者実習

- (1) 実習は1日間とし、実習病棟の看護師長とともに行動し、病棟リーダーとしての連携・調整とその業務内容の実際を知る。
- (2) 医療安全対策、感染制御対策、看護教育支援等の組織連携と病棟内の具体を知る。
- (3) 病棟づくりの実際を見学し、役割と機能を知る。
- 3) メンバー実習
 - (1) 実習期間は3日間とし、担当看護師とともに行動し、複数患者を援助する際の計画や優先順位決定、援助の方法をシャドウイングする。
 - (2) 他職種連携・調整方法やスタッフ間の情報共有の方法を知る。
 - (3) 複数の担当患者の情報収集や計画立案の方法を知る。
 - (4) 担当看護師の指導の下で、担当患者の援助を実践する。
 - (5) 担当看護師の指導の下で、チームの一員としてのリーダー（日勤帯の統括者）への報告・連絡・相談及び連携・調整の実際を知る。
 - (6) 担当看護師の指導の下で、リーダー（日勤帯の統括者）の役割を知る。
- 4) 複数対象の受け持ち実習
 - (1) 実習期間は5日間、うち1日間は半日とし、常に2名の受け持ち患者の看護展開を行う。
 - (2) 担当看護師の指導の下で、受け持ち患者の状態を把握して、時間管理を行い、計画を修正しながら、実践する。
 - (3) 状況に応じた報告・連絡・相談を行う。
 - (4) 必要に応じて患者退院調整カンファレンス等に参加する。
- 5) 統合実習学習内容及び実習スケジュール 別紙参照

3 カンファレンス

1) 初回カンファレンス

- (1) 目的 看護管理者・メンバー実習の体験をもとに、医療チームの一員としての学びを明らかにする。

テーマ「医療チームの一員としての学び」

(2) 方法

- ① 実習 6 日目(臨地実習5日目)に1時間以内で行う。
- ② 事前準備
 - ア カンファレンス前までに、記録5を教員に提出する。
 - イ 各自がカンファレンスの目的に沿って、質問や意見を準備する。
- ③ 実施
 - 発表した内容について、学生・臨地実習指導者・教員で意見交換を行う。
- ④ 事後
 - 記録5に「カンファレンスを通して気づいたことと今後の課題」を記入し、翌日提出する。

2) ミニカンファレンス

- (1) 目的 複数の対象について全体像を把握し、援助の方向性を予測する。

テーマ「患者の全体像と援助の方向性」

(2) 方法

- ① 臨地実習 7 日目に 30 分程度で行う。
- ② 作成した記録 A(全体アセスメント:発達課題上の特徴・疾患・症状・治療から心身社会面に及ぼす影響と看護上の問題及び援助の方向性)をもとに、テーマに沿って発表する。

③ 指導者及び教員から助言をもらい、次の日の実践に活かす。

3) 終了カンファレンス

(1) 目的 複数の対象への看護実践を振り返り、看護観について考えることができる。

テーマ「看護を提供するうえで大切にしたいこと」

① 臨地実習最終日に1時間以内で行う

② 事前準備

ア カンファレンス前までに、各自のメモをもとに思考の整理を行う。

イ グループ内でテーマについてディスカッションする視点を絞っておく。

③ 実施

発表した内容について、学生・臨地実習指導者・教員でディスカッションを行う。

※自由な意見交換、内容の深まり、グループとしての見解がだせるように工夫する。

4 学内実習

1) 学内1：実習1日目 2時間

(1) 目的 対象の意思や価値観を尊重し、倫理的課題に気づき、看護としての専門性を考える。

① ビジランの「事例で学ぶ看護倫理」を視聴し、学生自身がとらえた倫理的課題の場面を抽出する。

② 抽出した場面について倫理的視点で考える

(場面を選んだ理由、関わりからの気づき、分析・解釈、省察)

③ 振り返りから倫理に基づいた看護を実践するために必要なことは何かグループで話し合い考えを深める。

2) 学内2：実習6日目(臨地実習5日目) 午後

(1) 目的 複数の対象の全体像を把握し、援助の方向性を整理する。

① 方法

ア 全体アセスメント(発達課題上の特徴・疾患・症状・治療から心身社会面に及ぼす影響と看護上の問題及び援助の方向性)を事例ごとに、記録 A 1枚程度にまとめる。

3) 学内3：実習12日目

(1) 目的 実習体験を振り返り、看護における倫理的課題や看護の専門性について理解を深める。

① 方法

ア 個人作業：実習で取り上げた倫理的課題のある場面(自身の看護援助)を指定の用紙で振り返る。(1人1事例)

イ グループ作業：下記の視点で話し合い、倫理に基づいた看護実践について考えを深めグループの意見をまとめる。

・話し合った内容をわかりやすく資料にまとめ全体討議で発表できるようにする。(A3用紙)

・全体討議に向け、自分の看護としての倫理について考えをまとめておく。

[話し合いの視点]

- ・ 自身の看護場面における倫理的課題は何か
- ・ 看護として倫理に基づいた行動が求められるのはなぜか
- ・ 倫理に基づいた看護を実践するために必要なことは何か・自己の課題

ウ 全体討議

a)目的 「看護実践を振り返り、看護の専門性について考える」

b)方法・留意点

- ・まとめた資料をもとに発表する。グループ発表後、一人一人学びを発表する。
- ・各グループの発表が終了した後に質疑応答を行い、内容の理解を深める。
- ・聞く姿勢・伝える姿勢を意識しながら、話し合いや全体討議に取り組む。
- ・全体討議終了後に、全体討議での学びを所定の記録用紙に記述し、提出する。

5 終了時課題

1) テーマ 「統合実習を通しての学び、自分が目指す看護観とは何か」

(1) 方法

- ① 終了カンファレンスにおけるディスカッションと学内演習での学びを活かし、テーマに沿って記録 A 1 枚程度にまとめ、当日決められた時間に提出する。

6 実習記録

- 1) 記録1 看護管理者実習記録
- 2) 記録2 } メンバー実習記録
- 3) 記録 A } 全体アセスメント
- 4) 記録3 実習計画実習記録
- 5) 記録4 経過表
- 6) 記録5 初回カンファレンス記録
- 7) 記録 A 終了時課題
- 8) 記録学内1・3 倫理的課題

7 綴る順序

- 1) 記録 A 終了時課題
- 2) 記録5 初回カンファレンス記録
- 3) 記録1 (日付の早いものから順番に綴る)
- 4) 記録2 (日付の早いものから順番に綴る)
- 5) 記録3 (日付の早いものから順番に綴る)

患者 A

記録 A 全体アセスメント

記録4

患者 B

記録 A 全体アセスメント

記録4

患者 C

記録4 ...

- 6) 記録学内1・3 倫理的課題

記録提出

「Ⅳ 実習の概要」を参照し、実習最終日 13 時 00 分に提出する。

実習評価

「Ⅵ 実習評価」を参照し、評価表に基づき行う。

統合実習学習内容

1 看護組織

実習内容	学習内容	指導方法
1 病院組織におけるマネジメント ①病院の理念と組織構成 ②看護理念と看護部門の組織 ③職位と機能 ④看護単位の機能と特徴 ⑤看護ケア提供システム ⑥医療安全対策 ⑦感染制御対策 ⑧看護キャリアマネジメント（看護教育支援） ⑨災害・防災対策 <関連する記録> *統合実習記録1 *統合実習記録1.2追加用	1 組織管理者の役割 ①病院の機能と地域における役割 ②病院運営 ③看護師確保と人材管理 ④キャリアデザインと人員配置 ⑤他部門との連携・調整 ⑥病院機能評価 ⑦マネジメントの実際 ア 安全管理システム、医療安全管理者と看護管理者の協働、医療事故対策 イ 院内感染対策 ウ 災害・防災対策、 エ 看護師派遣（D-MAT、災害派遣看護師等） オ ハラスメント対策 カ 離職予防 キ 特定看護師、認定看護師等の管理・活用等 ク 院内の研修、教育制度（看護師ラダー）、研修派遣 ケ 労働環境 コ 実習生の受け入れ調整等 ※看護師1人1人に、どのように影響しているかをふまえた説明をお願いします。	臨床講義

2 看護管理者

実習内容	学習内容	指導方法
1 看護マネジメントの実際 ①物品管理 ②コスト管理 ③人材管理、人材育成 ④情報管理 ⑤施設・設備環境のマネジメント ⑥看護（日常）業務のマネジメント ⑦地域におけるマネジメント（スムーズな入院支援） ⑧医療安全対策 ⑨スタッフ教育 ⑩防災対策 ⑪感染対策 <関連する記録> *統合実習記録1 *統合実習記録1.2追加用	1 看護管理者の役割 ①ベッドコントロール ②勤務管理、業務時間の管理、人材管理 ③病棟内の各管理 ④病棟ラウンドと患者看護 ⑤他部門との調整、チームワークとコミュニケーション、他職種カンファレンスの中の看護師の役割 ⑥看護部門間の調整 ⑦看護マネジメントの実際 ア SPD システム、物品供給システム、コスト意識 イ 医薬品管理（血液製剤・麻薬・毒薬・劇薬含） ウ 医療機器 エ 廃棄物 オ 情報共有・管理の実際・医療情報の取り扱い、看護記録 カ 医療施設・設備、療養環境の整備 キ 作業環境の整備 ク 看護チームの体制・構成 ケ 看護基準、看護手順、クリニカルパス コ 安全管理システム、医療安全管理者と看護管理者の協働、医療事故対策 サ 院内感染対策 シ 災害対策 ス ハラスメント対策 セ 職員の健康管理（ストレス対策含） ソ 労働環境 タ 新人教育・研修、リーダーの育成、キャリア形成開発・継続教育 チ 実習生の教育、実習指導者の育成 ツ 転棟、退院支援と調整	シャドウイング 左記の内容について提示しながら説明、ラウンドしながら説明、実際を見せながら説明する。 位置づけ、意味づけをする。

3 チームメンバー

実習内容	学習内容	指導方法
1 チームメンバーの役割 ①1日の流れ ②情報収集 ③役割遂行時の優先順位 ④報告・連絡・相談、応援依頼 ⑤患者看護（入院時の看護、療養中の看護、退院時の看護） ⑥チームメンバーとの協働 ⑦チームリーダーと内の連携、調整、報告 ⑧他部門との連携 ⑨他病棟への引継ぎ、他病棟（外来）からの引継ぎ <関連する記録> * 統合実習記録2 * 統合実習記録1.2 追加用	①情報収集と1日のスケジュールの組み立て、優先順位の判断の実際 ②複数受け持ち看護の実際（その都度行われる優先順位の判断と実践、計画の修正と実践、評価のサイクル、患者家族への対応の実際、安全な看護業務の遂行） ③流動的な環境下での看護実践、患者の変化や状況の対応、作業中断の対応等 ④報告・連絡・相談のタイミングと方法、応援依頼の判断と方法 ④入院時・療養中・退院時のスムーズな入退院支援の実際 ⑤チームメンバーとの連携・協働の実際、カンファレンスの開催 ⑥多職種との連絡、報告、相談、調整の実際（医師、理学療法士、栄養士、薬剤師、MSW、介護士、医療事務等） ⑦転棟、退院の調整と支援の実際 ⑧夜勤者への引継ぎ準備、リーダーや師長への報告	①担当看護師と一緒に行動する。1日目は主に1日の流れが理解できるように、2日目は、多重課題への対応が理解できるように指導する。 ②見学・一部援助を一緒に実施させてもらう。 ③優先順位の判断やケア変更の判断当、なぜそのように行動したのか、その理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ④輸液の準備やミキシング、採血等の検査等一連の流れを見学できるようにする。 ⑤チームリーダーやメンバーとの報告・連絡・相談のタイミングや方法となぜそうしたのか理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ⑤看護技術の基本的な知識を発問しながら、応用の部分については、なぜそうするのか理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ⑥多重課題を予防するための工夫や多重課題がおこったときの対応を見学させる、説明する。 ⑦複数受け持ちの看護過程展開の実際を見学させる、工夫点を説明する。

4 チームリーダー

実習内容	学習内容	指導方法
1 チームリーダーの役割 ①チームの構成・メンバー構成・看護ケア提供システム ②患者看護とチームメンバーの業務管理 ③スタッフとの調整 ④看護チーム間の調整 ⑤多職種との調整 ⑥医療チームとしての役割 ⑦夜勤者への引継ぎ、他病棟への引継ぎ、他病棟からの引継ぎ ⑧退院調整 <関連する記録> * 統合実習記録2 * 統合実習記録1.2 追加用	①チームメンバー配置と受け持ち患者の特徴 ②安全で効率的な看護実践、1日の流れ、看護ケア提供システムの実際 ③流動的な環境下での看護実践、患者の変化や状況の対応、作業中断の対応等 ④スタッフの配置調整、業務の指示・変更調整 ⑤スタッフとのミーティング、カンファレンスの進行 ⑥看護チーム間での連絡、業務調整の実際 ⑦多職種との連絡、報告、相談、調整（医師、理学療法士、栄養士、薬剤師、MSW、介護士、医療事務等） ⑧医療チームとしての活動の実際（リハビリカンファレンス・NST カンファレンス等） ⑨転棟、退院の調整と実際 ⑩夜勤者への引継ぎ準備、実際 ⑪新人の教育・指導 ⑫退院支援の連携と実際	看護管理者・メンバー実習を通して、左記の内容について提示しながら説明、ラウンドしながら説明、実際を見せながら説明する。 意味づけをする。

5 複数受け持ち

実習内容	学習内容	指導方法
1 複数受け持ちの看護過程の展開 ①複数（2名）受け持ち患者の観察、情報収集 ②複数（2名）受け持ち患者の全体アセスメントと看護上の問題の判断・看護診断 ③複数（2名）受け持ち患者の看護計画立案 ④複数（2名）受け持ち患者の1日の援助計画立案 ⑤複数（2名）受け持ち患者の援助の実践と評価 ア その都度の情報収集とアセスメント、計画修正 イ 流動的な環境下での対応 ウ 患者への対応（患者の変化・状況の変化〔臨床判断の思考で〕援助中断・突発事象への対応等） エ 実施（実施中のアセスメント計画の変更）〔臨床判断の思考で〕 オ 援助の評価（本日の状態の評価、看護計画の評価、看護上の問題の追加修正の有無） カ 明日の援助計画立 <関連する記録> *統合実習記録3 *統合実習記録4	①病態・治療の内容を意識した複数受け持ち患者の情報収集を行う。時間配分を意識する。常に2人の患者を受け持つ。 ②それぞれ今の段階で必要とされる情報をもとに心身社会面の全体アセスメントから看護上の問題または看護診断を導く。 ③病棟で立案している看護診断・目標を意識した看護上の問題、看護診断、看護計画を立案する。 ④病棟の1日の流れを意識し、援助計画を立案する。（多重課題を避け、安全・安楽・優先順位を考慮した1日のスケジュールの組み立て） ⑤複数受け持ち看護の実際（その都度行われる状態の判断、優先順位の判断と実践、計画の修正と実践。評価のサイクル、患者家族への対応の実際、安全な看護業務の遂行） ⑥治療や処置、基本技術を復習して臨む。 ⑦流動的な環境下での看護実践、患者の変化や状況の対応、作業中断の対応を体験する。 ⑧報告・連絡・相談のタイミングと方法、応援依頼の判断と方法を体験する。 ⑨チームメンバーとの協働の実際を体験する。 ⑩多職種との連絡、報告、相談、調整の実際（医師、理学療法士、栄養士、薬剤師、MSW、介護士、医療事務等）を体験する。 ⑪転棟、退院の支援の実際を体験する。 ⑫夜勤者への引継ぎ準備、チームリーダーへの報告を体験する。	①担当看護師と一緒に行動する。 ②見学・一部援助と一緒に実施させてもらう。 ③優先順位の判断やケア変更の判断当、なぜそのように行動したのか、その理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ④輸液の準備やミキシング、採血等の検査等一連の流れを見学できるようにする。適宜発問する。 ⑤チームリーダーやメンバーとの報告・連絡・相談のタイミングや方法となぜそうしたのか理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ⑥看護技術の基本的な知識を発問しながら、応用の部分はなぜそうするのか理由（根拠）を説明しながら実習をすすめる。 ⑦多重課題を予防するための工夫や多重課題がおこったときの対応について報告を受け、どのように考え判断していくのか説明する。 ⑧複数受け持ちの看護過程展開の実際について、報告を受け、どのように考え判断していくのか説明する。

別紙 統合実習 臨地実習スケジュール例

臨地	時間	学 生	記録用紙 提出物	臨地実習指導者	教 員
学内1	2	・看護倫理について、グループで意見交換し倫理について考えを深める。	記録学内1 【持参】 学習課題3)		①学習課題の確認 ②倫理的視点で援助を捉えていくことの重要性
臨地 1～4	臨地 1～4日目 臨地 8:30～ 16:15 (9H)	1日目 ・メンバー実習(1日目) 病棟オリエンテーションを受け、 その他はメンバー実習(シャドウ イング)を行う。 14:00～看護組織の説明を受ける 2日目から4日目: ・病棟看護管理者実習(1日) ・メンバー実習(3日間) ・夜勤への引継ぎを見学する。	①記録1ま たは2 (毎日提出) 【持参】 ②事前学習 1)の(1) (2)	①病棟オリエンテーショ ン ②管理実習(看護局・病棟 師長・メンバー)の日程 調整を行う ③管理実習計画の助言 ④行動計画の確認・助 言・指導 ⑤学生と共に複数患者の 援助を実施 ⑥援助時の技術の確認・ 助言・指導 ⑦優先順位の判断や時間 管理の確認・助言・指 導 ※実習内容参照	①事前学習の確認 ②臨地実習指導者と管理実 習の日程調整 ③管理実習計画の助言 ④行動計画の確認・助言 ⑤援助時の技術の確認・助 言・指導 ⑥優先順位の判断や時間管 理の指導助言 ⑦シャドウイングによる援 助の意味付けを行う ⑧学生の学習状況を確認 し、臨地実習指導者と相 談・調整する
臨地5	臨地 8:30～ 12:15 (5H) 学内 13:15～ 15:30 (3H)	8:30～10:00 ・初回カンファレンス準備 10:00～12:15 ・初回カンファレンスの実施 ・複数受け持ち患者選定と情報収 集(臨地) PM 学内実習 ・受け持ち患者の事前学習、全体 アセスメント・援助の方向性・援 助計画	①記録5 10:00 提出 【持参】 ②記録A ③記録3 ④記録4	複数受け持ち患者の選定 情報提供、患者へのあい さつ ①カンファレンスでの助 言 ②複数受け持ち患者の情報 収集・アセスメント・ 行動計画の助言・指導	①カンファレンス資料の確 認 ②スムーズなカンファレン ス実施のための調整 ③カンファレンスでの助言 ④複数受け持ち患者の情報収 集・アセスメント・行動 計画の助言・指導 ⑤学生の学習状況を確認 し、臨地実習指導者と相 談・調整する
臨地6	臨地 8:30～ 12:15 (5H)	複数受け持ち患者実習 ・行動計画を担当看護師に相談し 対象のニーズや優先度を考慮 し計画修正しながら実施 ・前日の情報収集から立案した1 日の行動計画を担当看護師に 発表する(2日目以降は前日の 実習後からの情報を収集した 上で行動計画発表する)。 ・常に2人の患者を受け持つ	①記録5(カン ファレンス 後) ②記録A (臨地6日 目提出、適宜 追加) ③記録3 ④記録4 毎日提出 ⑤事前学習 2)	①行動計画の確認・助 言・指導 ②学生と共に複数患者の 援助を実施 ③実施時の技術の確認・ 助言 ④優先順位の判断や時間 管理の指導助言	①行動計画の確認・助言 ②実施時の技術の確認・助 言 ③優先順位の判断や時間管 理の指導・助言 ④カンファレンスでの助 言・指導に対するフォロー アップ ⑤学生の学習状況を確認 し、臨地実習指導者と相 談・調整する
臨地 7～10	臨地 8:30～ 15:30 (8H)	複数受け持ち患者実習 ・行動計画を担当看護師に相談し 対象のニーズや優先度を考慮 し計画修正しながら実施 ・前日の情報収集から立案した1 日の行動計画を担当看護師に 発表する(2日目以降は前日の 実習後からの情報を収集した	①記録5(カン ファレンス 後) ②記録A (臨地6日 目提出、適宜 追加) ③記録3	①行動計画の確認・助 言・指導 ②学生と共に複数患者の 援助を実施 ③実施時の技術の確認・ 助言 ④優先順位の判断や時間 管理の指導助言	①行動計画の確認・助言 ②実施時の技術の確認・助 言 ③優先順位の判断や時間管 理の指導・助言 ④ミニカンファレンス、終 了カンファレンスの助 言・指導

臨地	時間	学 生	記録用紙 提出物	臨地実習指導者	教 員
		上で行動計画発表する)。 ・常に2人の患者を受け持つ 臨地7日目ミニカンファレンス 「受け持ち患者の全体像と援助の方向性」 臨地10日目終了カンファレンス (ディスカッション) 「看護を提供するうえで大切にしたいこと」	④記録4 毎日提出 ⑤事前学習 2)	⑤ミニカンファレンス、 終了カンファレンスの 助言・指導	⑤学生の学習状況を確認し、臨地実習指導者と相談・調整する ⑥学生の目標達成状況の確認と評価のすり合わせを行う
学内3	5時間	学内3実習 「実習体験を振り返り、看護における倫理的課題や看護の専門性について理解を含める」 ①個人作業 ②グループ作業 ③全体討議	①記録学内3		①学生の倫理的課題を確認する ②グループ作業での指導・助言 ③全体討議の指導・助言

別紙 実習グループのスケジュール 例

学内 4H	実習オリエンテーション・実習スケジュール説明			
	【学内1】 課題学習：倫理的課題の場面から看護倫理について考える。書類等準備			
臨地 1日目 9H	8：30～15：00 病棟オリエンテーション・質疑応答（時間は調整可）事前学習確認 ※オリエンテーション後、メンバー実習（1日目） 看護組織マネジメントの説明（臨地1～4日目で実施）			
2日目 9H	病棟看護管理者実習	病棟看護管理者実習	チームメンバー実習 （2日目）	チームメンバー実習 （2日目）
3日目 9H	チームメンバー実習 （2日目）	チームメンバー実習 （2日目）	病棟看護管理者実習	病棟看護管理者実習
4日目 9H	チームメンバー実習 （3日目）	チームメンバー実習 （3日目）	チームメンバー実習 （3日目）	チームメンバー実習 （3日目）
5日目 9H	AM：臨地実習（初回カンファレンスの準備） ：初回カンファレンスの実施 ：複数受け持ち患者選定と情報収集（受け持ち1人からでも可、いつでも2人受け持てるよう） PM：【学内2】に戻り事前学習 → 全体アセスメント → 翌日の援助計画			
6日目 8H	（1日目） AM（臨地） 複数受け持ち実習 PM（自己学習） 受け持ち患者の全体アセスメント、援助計画立案	複数受け持ち実習	複数受け持ち実習	複数受け持ち実習
7日目 5H	（2日目） AM（臨地） 複数受け持ち実習 受け持ち患者のアセスメント、援助計画立案・修正	ミニカンファレンス；全体像と援助の方向性の確認（30分程度）		
8日目 8H	（3日目）1日臨地実習			
9日目 8H	（4日目）1日臨地実習			
10日目 8H	（5日目）1日臨地実習	終了カンファレンス；複数の対象への看護を通して気づいたこと		
学内 5H	【学内3】「実習体験を振り返り倫理的課題や看護の専門性について理解を深める」 AM ①個人作業 AM ②グループ作業 PM ③全体討議 終了時課題まとめ <u>記録提出期限 16:00</u>			

統合実習評価表

茨城県立中央看護専門学校看護学科3年課程

学籍番号		氏名	実習施設	実習期間		～	評定
評価項目			学生	教員	自己評価2以下をつけた理由		
人間 能力 形成	1	様々な対象と援助関係を形成できる。					
	2	対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける。					
	3	自己の役割を意識して行動できる。					
看護 実践 能力	4	保健医療福祉チームにおける看護組織の役割と機能を理解できる。					
	5	看護単位における看護職管理者の役割と機能を理解できる。					
	6	看護ケア提供システムを理解し、メンバーの役割を理解できる。					
	7	保健医療福祉チームにおける多職種の役割と連携・協働について理解できる。					
	8	複数の対象の病態・症状・治療についてアセスメントし、看護の方向性が見出せる。					
	9	複数の対象の状態に合わせた状況の判断および必要な援助を決定できる。					
	10	多重課題における優先度が理解できる。					
	11	自ら必要な指導を受けながら、複数の対象に必要な援助を実施できる。					
	12	状況に応じて自ら報告・連絡・相談ができる。					
	13	実施した援助を評価し、次の援助に活かすことができる。					
	14	医療安全・感染・災害対策を理解し行動できる。					
	15	複数の対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を形成できる。					
専門 職業 人としての 行動	16	専門職としての自覚を持ち、倫理的かつ責任ある行動がとれる。					
	17	セルフマネジメント・タイムマネジメント自律して行うことができる。					
看護 の 探 求	18	実習を通して学んだことと今後の自己の課題を明らかにできる。					
	19	複数の対象に看護実践して大切にしたいことを明らかにできる。					
	20	看護師に求められる看護マネジメントと自分が目指す看護観について述べるができる。					
評価合計点(100点)					教員印		

《評価尺度》

5点：主体的にできる。要点を助言することによりタイムリーに追加・修正ができる、または十分に説明ができる

4点：指導を受けてできる、方向付けの助言をすることにより追加・修正ができる、または説明ができる

3点：かなりの指導を受けてできる。具体的な助言により、時間を要するが追加・修正できる、または口頭で述べられる

2点：かなり指導を受けても課題が残る、繰り返し助言を受けても追加・修正が難しい、口頭でも述べられない

評価基準に該当しないものは斜線(/)で表示し、点数化しない

統合実習評価の視点

評価項目		評価の視点
人間関係形成	1 様々な対象と援助関係を形成できる	☐ 相手の立場にたって考え、適切な行動がとれた（患者、家族、指導者、メンバー、教員） ☐ 対象の言動から感じたことを反応の意味を確かめて、相手に伝えることができた
	2 対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける	☐ 意見の違いや立場の違いを理解した話し合いができた ☐ 自分と周囲の関係性を理解し、主体的にかかわることができた ☐ 対象と援助的人間関係が築けた ☐ とらえた反応の意味を考えることができた
	3 自己の役割を認識して行動できる	☐ 学習環境の特徴を理解し、状況に合わせた適切な行動をとることができた（患者や医療者の予定、都合を考慮したうえで、自分の行動を調整し、報告・連絡・相談ができる） ☐ ほかのメンバーの行動を把握し、自分の行動を調整できた ☐ お互いに情報共有し、学習目標が到達できるよう協力できた ☐ 自己の役割を認識し、アサーティブなコミュニケーションがとれた
看護実践能力	4 保健医療福祉チームにおける看護組織の役割と機能を理解できる	☐ 実習体験をもとに具体的に例を挙げ説明できた ☐ 既習学習を用いて理論的に考察できた ☐ チーム医療の必要性について、自己の考えを表現できた ☐ 保健医療福祉チームのなかの看護士の役割と責任について、自己の考えを表現できた ☐ 医療安全、人材管理と人材育成、感染対策、災害・防災、病院経営 ☐ 地域における病院の役割と機能 ☐ 以下の語句を意図的に学習する ・看護職同士の相互理解 ・患者のパートナーシップ ・アドボカシー ・コーディネーター ・チームメンバー ・患者と生活を結びつけた支援
	5 看護単位における看護職管理の役割と機能を理解できる	☐ 実習体験をもとに具体的に例を挙げ説明できた ☐ 既習学習を用いて理論的に考察できた ☐ 看護部の在り方とその課題について、自己の考えを説明できた ☐ 看護管理の役割（看護マネジメント）について、自己の考えを表現できた
	6 看護ケア提供システムを理解し、メンバーの役割を理解できる	☐ 実習体験をもとに具体的に例を挙げ説明できた ☐ 既習学習を用いて、理論的に考察できた ☐ チーム構成・メンバー構成・看護ケア提供システムについて説明できた ☐ 勤務時間の看護体制システムについて説明できた ☐ チームリーダーの役割（業務管理、スタッフ・看護チーム間・多職種）を理解できた ☐ チームメンバーの役割（優先順位の判断、情報共有）について、自己の考えを表現できた ☐ 臨床判断の思考について考察できた
	7 保健医療福祉チームにおける多職種の役割と連携・協働について理解できる。	☐ 実習体験をもとに具体的に例を挙げ説明できた ☐ 既習学習を用いて理論的に考察できた ☐ 関係する職種とその役割について説明できた ☐ 多職種との連携の在り方（目標の共有、情報共有、相互の役割と責任の確認、相互関係の7継続）とその課題について、自己の考えを表現できた
	8 複数の対象の病態・症状・治療についてアセスメントし、看護の方向性が見出せる。	☐ 助言をもとに、複数の対象の疾患・治療を整理できた ☐ 身体面、心理面、社会面からそれぞれの対象の状態について解釈できた ☐ 助言をもとに、複数の対象の看護の方向性を説明できた
	9 複数の対象の状態に合わせた状況の判断および必要な援助を決定できる。	☐ 解釈をもとに、複数の対象に無理のない妥当な援助計画が立てられた ☐ 助言をもとに、複数の対象の状態が判断できた ☐ 助言をもとに、本日の状態を踏まえ、必要な援助が決定できた ☐ 日々の状況と患者の反応を解釈して、計画の修正ができた ☐ 臨床判断の思考にもとづいて、必要な援助を決定する過程が説明できた
	10 多重課題における優先度が理解できる。	☐ 緊急度と重要度を基準にした判断について自己の考えを説明できた ☐ 状況に適した優先順位の判断について自己の考えを説明できた ☐ 患者、医療者ともに無理のない優先順位を考え、説明できた
	11 自ら必要な指導を受けながら、複数の対象に必要な援助を実施できる。	☐ 複数の対象に必要な援助が正しい方法で実施できた ☐ 複数の対象に安全・安楽に援助ができた
	12 状況に応じて自ら報告・連絡・相談ができる。	☐ 得た情報から必要な内容を選択し、報告・連絡できた ☐ 状況を見定め、適切なタイミングで相談できた ☐ 適切な人（指導者、担当看護師、教員等）に、タイミングよく報告・連絡・相談および協力要請ができた ☐ 報告・連絡・相談、協力要請はSBAR（ISBAR）を用いてできた ☐ 常に自己の言動を振り返り、タイムリーに修正できた
	13 実施した援助を評価し、次の援助に活かすことができる。	☐ 対象の反応から実施した援助の意味を考えることができた ☐ 優先度の判断について自己の思考と行動を客観的に分析できた ☐ 複数の行為や複数の患者への対応、スケジュール調整について客観的に分析できた ☐ 分析した結果をもとに、次の援助を修正できた ☐ 常に自己の言動を振り返り、タイムリーに修正できた
	14 医療安全・感染・災害対策を理解し行動できる。	☐ 実習体験をもとに、具体的に事例を挙げ説明できた（安全管理のしくみ、医療事故対策、院内感染対策、災害の予防と対応） ☐ 既習学習を用いて、理論的に考察できた ☐ 安全管理のしくみ、医療事故対策、院内感染対策、災害の予防と対応をふまえ、患者、医療者、自分自身の安全を守って行動できた
	15 複数の対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を形成できる。	☐ 複数の対象それぞれに関心をもって看護援助ができた ☐ 複数の対象それぞれと効果的なコミュニケーションをとることができた ☐ 複数の対象それぞれの状況や心情を考え、行動できた
専門職人としての行動	16 専門職としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。	☐ 学習者としてのコミュニケーション：園地での学習を行うために必要なコミュニケーションが効果的にとれた（挨拶、報告、質問、言葉遣い、表情、振る舞い、など） ☐ 看護者としてのコミュニケーション：対象に関心を寄せ、看護援助を実施するために必要なコミュニケーションがとれた（挨拶、言葉遣い、身だしなみ、表情、振る舞い、説明、同意を得る、など） ☐ 情報管理：個人情報保護や守秘義務を理解し、適切な行動がとれた ☐ 体調管理：自分本来の力が発揮できるよう心身の健康を維持する適切な行動がとれた（栄養、休息、生活リズム、感染症対策、ストレスコントロール、など） ☐ 決められた約束事を守り、誠実な態度と適切な行動がとれた
	17 自己学習に意欲的・自律的に取り組み、看護実践に反映できる	☐ 知識や能力向上のための学習に必要な行動がとれた（質問する、相談する、資料を探す・調べるなど） ☐ 課題を意図して、計画的に学習をすすめることができた ☐ 自分の学習活動を客観的に振り返り、次の課題を具体的に表せた
看護の探求	18 実習を通しての学んだことと自己の課題を明らかにできる	☐ 実習での経験を具体的に示すことができた ☐ メンバー・看護管理者実習での学びをもとに、自己の課題について明確に表現できた ☐ 自己の課題について理由をあげて筋道立てて説明できた ☐ 他者にわかりやすく説明できた
	19 複数の対象に看護実践して大切にしたいことを明らかにできる	☐ 実習での経験を具体的に示すことができた ☐ 複数の対象への看護実践での学びを明確に表現できた ☐ 他者にわかりやすく説明できた ☐ 臨床判断の意義を説明できる
	20 看護師に求められる看護マネジメントと自分が目指す看護観についてのべることができる	☐ 実習での経験を具体的に示すことができた ☐ 自己の看護師像（看護観）を明確に描き、表現できた ☐ 自己の課題について理由をあげて筋道立てて説明できた ☐ 他者にわかりやすく説明できた

看護管理者実習記録

日 曜日（実習 日目） 指導看護師長 学生番号

本日の行動目標	実施時間	見学・実施内容及び結果	気づき及び考察

メンバー実習記録

日 曜日（実習 日目）指導看護師 学生番号

本日の行動目標・ 患者情報	実施時間	見学・実施内容及び結果	気づき及び考察

総合実習 記録3 実習計画実施記録

本日の援助計画		気づき・予測・判断		実施（実践と対象の反応）	
A氏	B氏	A氏	B氏	A氏	B氏
		※朝、情報収集・観察をしての予測→変更			
評価（優先度の判断・計画の修正・実施）（複数の行為や複数の人への対応・スケジュール調整）					

出

	実習日数						盛地1日目 入院・術後日数														
	時間						10時														
	体温						37.5														
	脈拍						100														
	血圧						120/75														
	呼吸数						22														
	体重						60kg														
	食事種類																				
	食事摂取量																				
	排便回数						その日の回数を記載														
	IN量						実習時間内のものを計算して記載														
O U T 量	尿量																				
	肝下ドレーン																				
	皮下ドレーン																				
(例)	呼吸音						清明														
	副雑音						水泡音														
	腸蠕動音						良好														
	創部発赤						なし														
	ドレーン性状																				
観察項目																					
援助項目	清潔援助						何時に行ったかを記載する														
	清拭						11時に実施 or O														
検査・処置その他特記事項							心電図モニター、Aライン挿入中 血糖測定 3検														
指導者・教員印																					

[illegible]

学生番号

テーマ「医療チームの一員としての学び」

カンファレンスを通して気づいたことと今後の課題

テーマ

学生番号

患者の状況・場面を取り上げた理由				
【気づき】患者の言動・表情など観察したことからどんな事を感じたのか。	【分析】気づきの内容から考えたこと。なぜその対応になったのか、患者にとってどうだったか。(倫理の原則と照らし合わせ考える)	【考え・行動】気づきを分析し、どのような看護実践であったか、患者の反応はどうであったか。	【省察】一連の看護実践を振り返り、どのような看護援助が必要だったのか。	
【場面を振り返っての学び】・自分のどのような傾向に気づき、看護の専門性の理解が深まったか。				